

將、政界に於ては、曩の總理大臣若槻禮次郎氏を始め久原房之助、八田宗吉、秋田清、後藤文夫、中村嘉壽、松岡洋右、橋本玄武、芳澤謙吉、三原繁吉、牛塚虎太郎、林清太郎、原修輔、安達謙藏、井上準之助、小泉又次郎、渡邊千冬、櫻内幸雄、町田忠治、永井柳太郎、長島隆二、弊原重郎、前田多門、永田秀次郎、田所美作、丸山鶴吉、三矢宮松の諸氏、此の他國士頭山滿翁、伯爵二荒芳徳、故野間清治、内田良平、森峰一、横山重太郎、松島肇、兒玉秀雄、永井松三、新渡戸稻造博士、淨法寺五郎、片野重脩、總領事岩手嘉雄、同富井周、同鶴見憲、同永井清、堀内謙介、近藤知喜、澁谷伴之彦、山形閑、前田伊三次郎、古市進、兵隊俊、大島常喜、木下友三郎、三船久藏、濱田吉次郎、竹内健郎、今井田清徳、安田三郎治、柴田徳次郎、範士中山博道、高野佐三郎、齋村五郎、持田盛二、小川金之助、中野宗助、大島治喜太、高野茂義、小關教政、森寅雄、久納誠一、山口義一、熊谷直太、上田孝吉、林慎治、中山高治、甲斐靜如、田中高愚、村上幸吉、森岡二郎、外山豊造、池田清、佐伯顯、上内彦作、佐々木忠右衛門、市川阿蘇次郎の諸氏である。

整備時代を迎へて

北米武徳會南加聯盟會々々 橋 本 數 市



カリフォルニア、オレゴン、ワシントンの沿岸三州に跨つて、今日六個の聯盟と、四拾有餘の支部を有する、我が北米武徳會が、此の隆盛なる發展を齎し得たのは、素より、開拓者たる教士中村藤吉氏の、剛健なる開拓力と、民族愛の精神に俟つ所多々あるが、然も中村教士をして、其の天稟の技術才幹を、遺憾なく伸張せしめる可き、堅き最初の基礎を築いたものは、即ち我がサンビドロ劍道支部の設立に、起因すると言ふも、敢て過言では

ないと思ふ。

而して此の支部を、創立以來實に十ヶ年の長い年月、時に無理解者、罵詈非難の聲を浴び、時に他の劍道團の、彈壓的壓迫を受けながら、全く、孤立無援の境地に立つて、善く奮闘精勵して、多數青年男女の子弟を養成し、眞に隔世の觀ある、教化指導の實績を擧げ、又、その半面には、開拓者中村教士の、隠れたる女房役となり、精神物質の兩面に、多大の犠牲を拂つて今日あらしめたる、現南加聯盟總師範、鍊士藤井登六氏の功績に對し、不肖私は、常に深甚なる敬意と、感謝の意を表するものである。

惟ふに、我が北米武徳會の事業は、創立より今日迄の十ヶ年間は、實に之れ、血と涙の開拓時代であり、隨つて南加聯盟に屬するサンビドロ、ロングビーチ、ドミングスヒール、ノーオーク各支部の、役員及び父兄諸氏の、聯盟並に各支部

整備時代を迎へて

維持經營上に於ける苦心は、全く想像外なるものがあり、よくも今日の成果を擧げ得たりと、私かに會心の笑禁し得ない次第であるが、抑も武徳會本來の事業は、愈々之れからが、本格的整備時代に直面し居り其の維持運用の如何に依つては、徒らに歳を重ねるに過ぎない結果に墮するものなれば、宜敷く時代の趨勢に則り、益々健實に、一歩々々其の目的達成に、御協力あらむことを切に希望する次第である。

北米武徳會創立十週年の吉晨を迎へ、茲に其の記念とすべき剣道大鑑の編纂發行に當り、先づ中村教士、藤井師範の筆舌に盡せぬ功績を讃え、併て聯盟並に各支部役員、父兄諸氏の、絶大なる御後援支持に對し、深く感謝の意を表するものである。皇軍徐州攻落の快ニュースを聴きつゝ、(五月二十日)

南加州讚歌

燦々と日光が注げば
 褐色の丘も
 緑の沃野も
 又緑の谷も
 金色に染まる

雪の銀冠を被つた
 嶺の麓には
 サンキストの
 オレンジが輝き

熱帯の花咲く砂漠は
 色とりどりの
 カーペットを
 布いたやうだ
ロスコワーヤット.....